

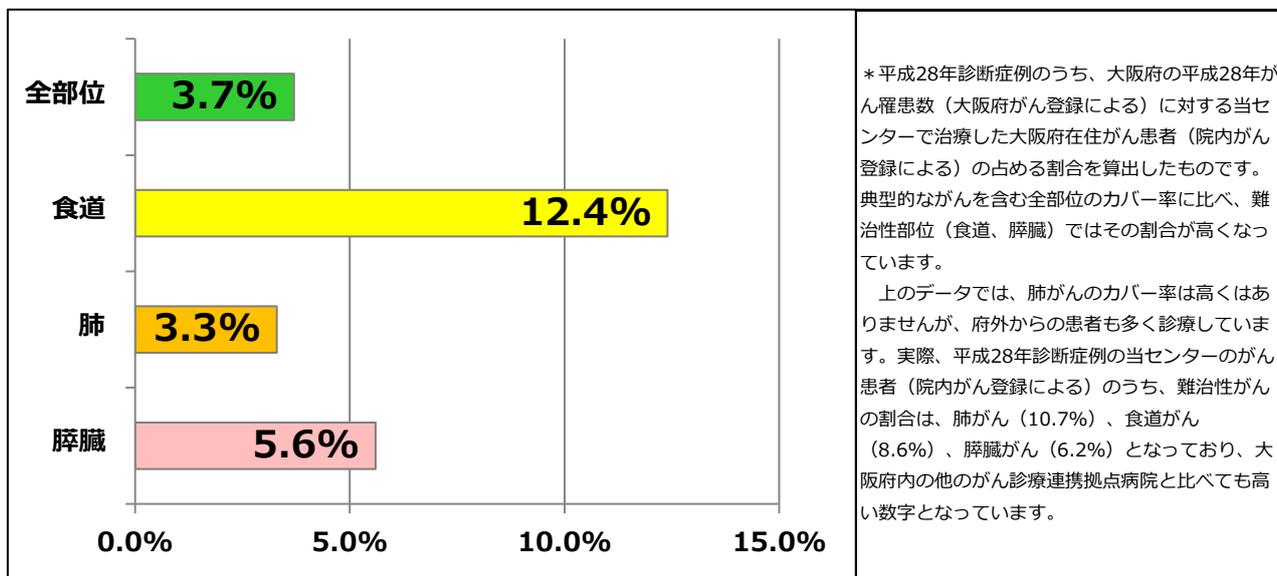
## 大阪府域における難治性がんのカバー率

## 指標の概要

胃がん・乳がん・大腸がんなどの典型的ながんについては、診療の均てん化が図られてきました。しかし、食道がん・肺がん・膵臓がんなどの難治性がんの診療については、高い専門性が必要であり、専門性の高い病院で診療するケースが多くなります。

本指標は、大阪府在住がん罹患患者のうち当センターで治療を受けている割合を示すものです。症例数を多く積み重ねることで、がん治療に対し多くの知見、データが得られ、専門技術が向上します。この指標は、病院の持つ技術力の高さを示す指標となります。

## 大阪府域における難治性がんのカバー率



## 指標の定義、計算方法

大阪府のがん罹患患者数に対する当センターで治療した大阪府在住がん患者の占める割合をカバー率としています。

## 指標のレベル・ベンチマーク

難治性がんや、希少がんのカバー率は、地域のがん診療の事情に影響されますので、他の地域との比較には注意が必要ですが、当センターは、大阪府域において有数の実績を上げています。

## 病院の強みと指標における特徴

---

がん治療の高度専門病院として、難治性がん、希少がんに対する専門医がさらに経験を積むことで、技術を向上させております。

また、都道府県がん診療連携拠点病院として、地域のがん診療拠点病院との連携により、地域の医療機関では対応困難な難治性がん、希少がん患者の治療を行っています。

これらの取り組みを通じ、府域の難治性がん、希少がん患者に良質な高度専門医療を提供していきます。

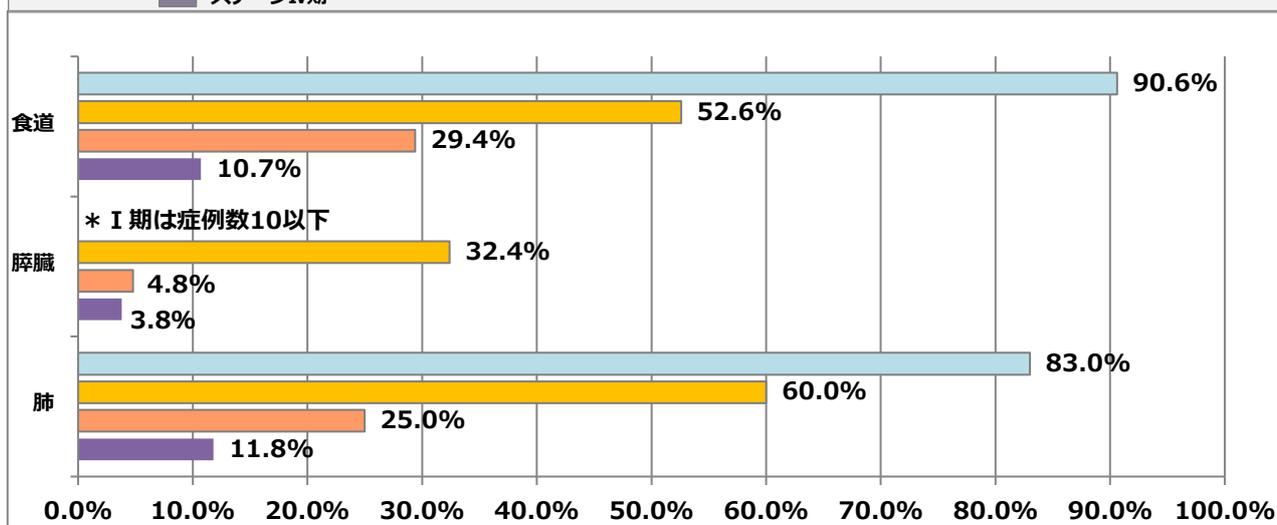
## 指標の概要

生存率とは、ある疾患の診断・治療後、一定期間後に生存している割合を示すものです。一定期間が5年であれば、5年生存率といいます。一般に、疾患の重症度が同等であれば、5年生存率が高いほどその疾患の治療成績が優秀と言えます。しかし、疾患の重症度はさまざまな因子に左右され、しかも患者の持つ個別因子による効果の違いもあり、単純比較はできません。さらに、5年生存率は予後把握率が低いと見かけ上良くなり、その解釈には慎重さも求められます。あくまでも1つのデータとして見る必要があります。

## 5年実測生存率

平成24年当センター診断がん患者のうち、当センターにおける第1がんかつ浸潤がんの者

- ステージⅠ期
- ステージⅡ期
- ステージⅢ期
- ステージⅣ期



## 指標の定義、計算方法

ある疾患の診断・治療後、5年生存している確率

## 指標のレベル・ベンチマーク

当センターの値は全国トップレベルですが、5年生存率については、がん患者の病状、合併症により大きく影響され、単純な比較はできません。

## 病院の強みと指標における特徴

---

当センターでは、手術、放射線治療、化学療法を組み合わせた集学的治療に取り組んでおり、難治性がん、希少がんについても、豊富なデータからがんの症状に合った最適な医療を提供するよう努めています。

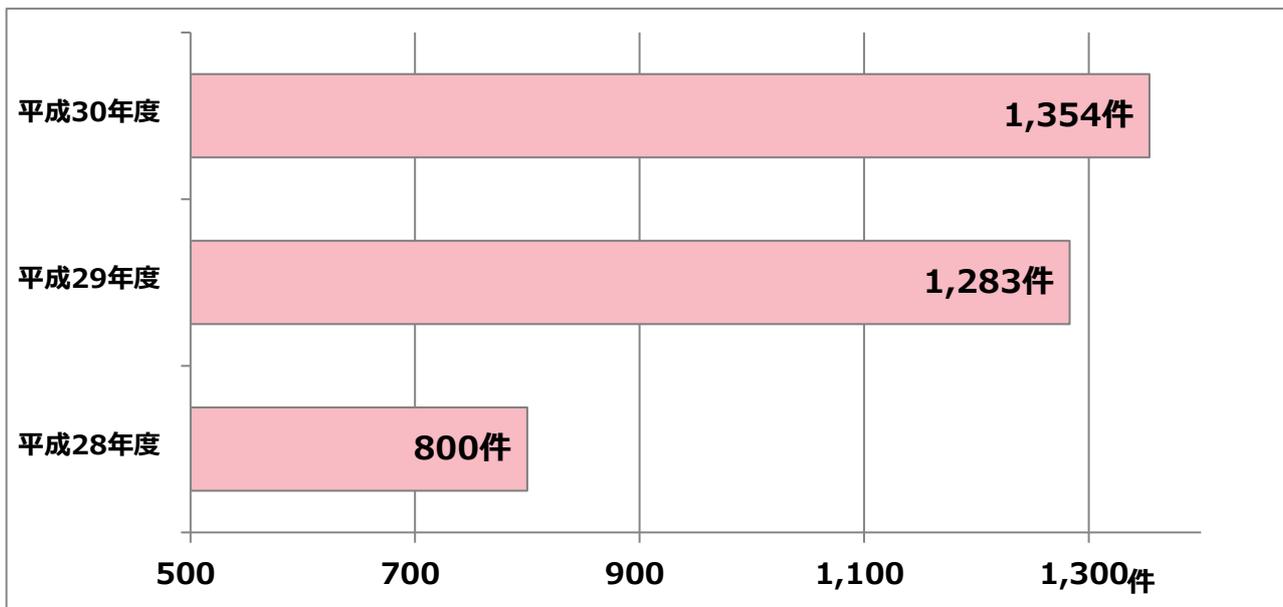
また、安全で患者の負担の少ない内視鏡治療や、患部にピンポイントに照射可能な I M R T（強度変調放射線治療）、術前、術後に免疫化学療法を実施するなど、効果的で患者負担の少ない新たな治療法を取り入れ、さらなる向上に努めます。

## 指標の概要

セカンドオピニオンとは、ある疾患で医療機関にかかっている方が、自分の受けている治療が適切か、他の選択肢はないのか、他の医療機関に対し意見を求めることです。特に、がん治療は、手術、放射線治療、化学療法との組合せから最適な医療を提供する集学的治療により、治療法の選択も多岐に渡ります。

当センターでは、通常のがんに加え、難治性がん、希少がんについても症例を多く持つとともに、研究所、がん対策センターとの三位一体となった運営体制により、新たな診療法の開発にも努めており、高度な技術に対する信頼から多くの患者からセカンドオピニオンを求められています。

## セカンドオピニオン件数



## 指標の定義、計算方法

セカンドオピニオン料を算定した件数

## 指標のレベル・ベンチマーク

セカンドオピニオンの実績を公表している病院は少なく、単純な比較は難しいですが、厚生労働省調査による全国の医療機関の一月あたり平均はおよそ580件（平成19年度・セカンドオピニオン外来実施医療機関の利用状況調査 200床以上の病院1,000施設平均）であり、800件を超える当センターの実績は高い水準にあると考えられます。

## 病院の強みと指標における特徴

---

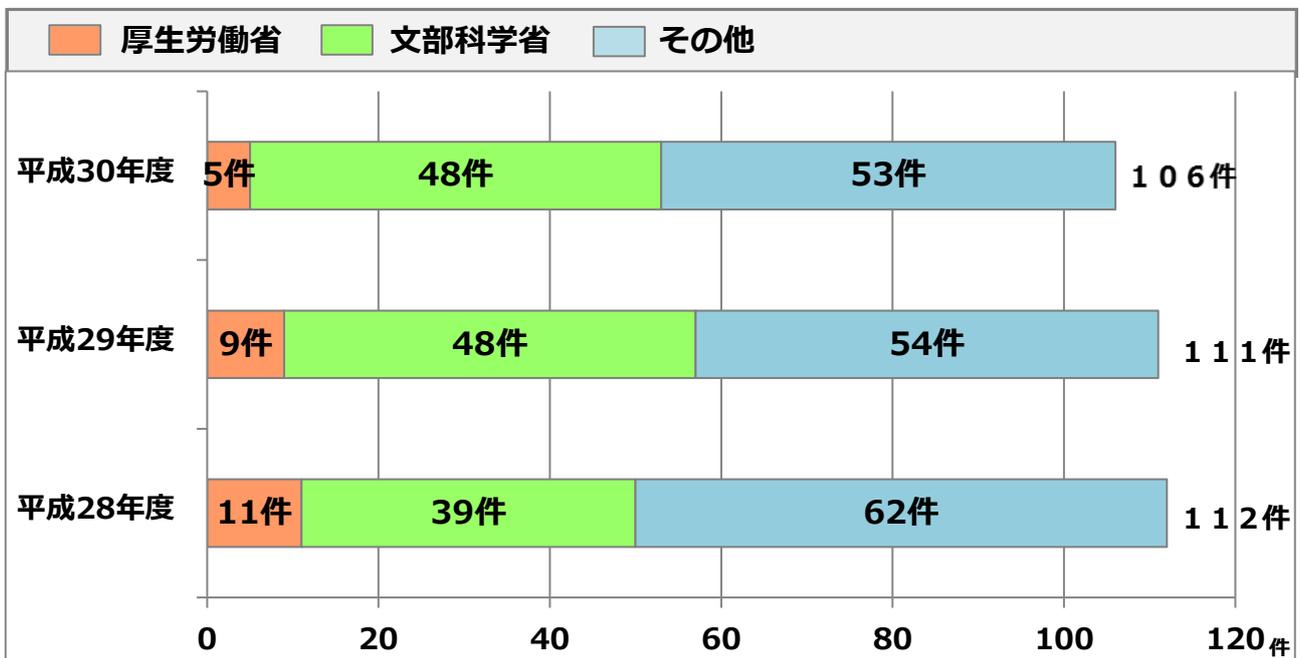
都道府県がん診療連携拠点病院としてがん診療の均てん化を進め、がん診療についても地域の医療機関でも一定レベルの治療が可能となりました。しかし、がん治療は日進月歩であり、患者は常に最新・最適な医療を求めます。セカンドオピニオンは患者が信頼する医療機関のバロメーターとも言え、今後も大阪国際がんセンターががんの分野で日本の医療をリードすることで、セカンドオピニオンも高い水準で推移するものと考えています。

## 4

## 競争的資金による研究件数

## 指標の概要

新しい治療や診断法の研究には、一定の資金を要します。国（厚生労働省、文部科学省・AMED）や、民間財団・企業等では、こうした研究を支援するための資金を提供しています。しかし資金には限りがあり、費用対効果により成果が求められます。このため、成果の出せる優秀な研究に資金を集中させる必要があり、審査などにより、対象となる研究を決めることとなります。このような資金を「競争的資金」といい、競争的資金獲得件数が多いことは、優秀な研究がなされている証とも言えます。



## 指標の定義、計算方法

競争的資金獲得件数：厚生労働科学研究費獲得件数、文部科学研究費獲得件数、その他共同研究資金の獲得件数

## 指標のレベル・ベンチマーク

文部科学省の資金のうち、平成30年度採択の研究助成費については、当センター28件（29年度28件、28年度26件）に対し、埼玉県立がんセンター12件（29年度10件、28年度10件）、千葉県がんセンター25件（29年度27件、28年度28件）、神奈川県立がんセンター13件（29年度16件、28年度15件）が対象となっています。

（出典：文部科学省 科学研究助成費 研究者が所属する研究機関別採択件数・配分額一覧）

## 病院の強みと指標における特徴

---

当センターにおいては、がん組織の長期保存技術（CTOS）や、がんのゲノム解析など、研究所を主としてがん診療に対する高い技術を有しており、厚生労働省、文部科学省やAMEDの競争的研究費の獲得や、企業など民間研究機関との共同研究による資金を獲得しております。

今後も患者に負担の少ない効果的な治療法や、新たな診断法のなどの開発を行い、がん診療をリードしていきたいと考えています。

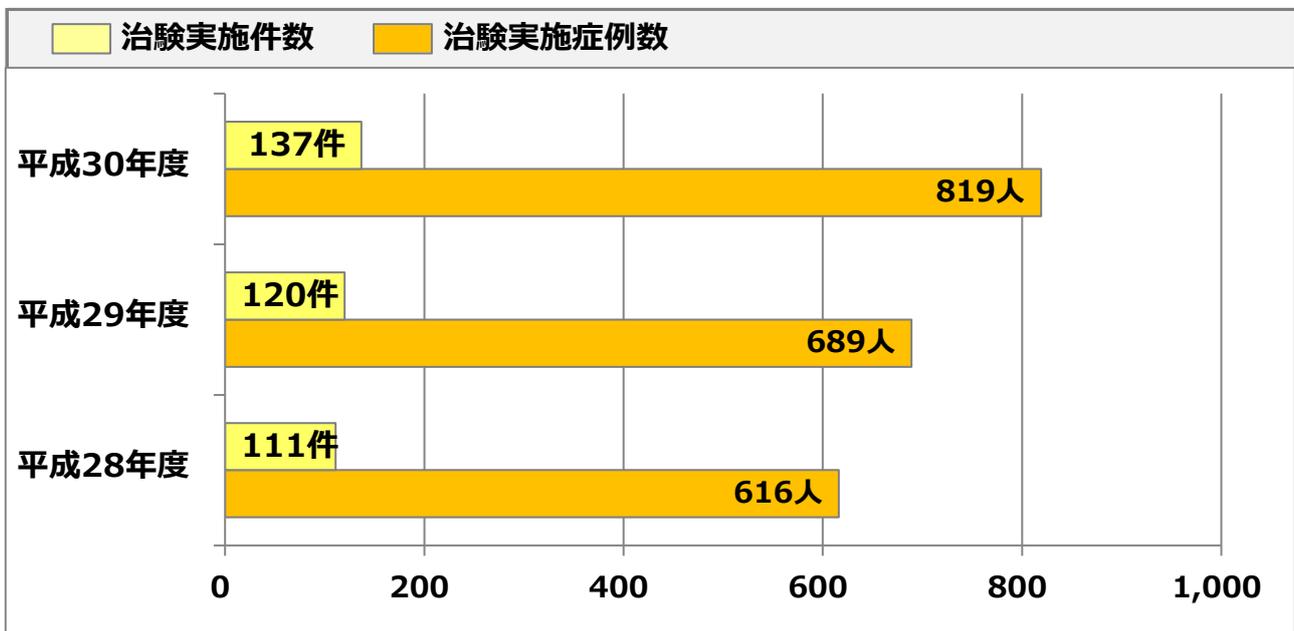
## 5

## 治験実施件数

## 指標の概要

治験とは厚生労働省から新しく医薬品として承認を得るために、患者の協力を得て行われる臨床試験のことです。治験を行う病院は、「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」という規則に定められた下記要件を満たす病院だけが選ばれます。

- ①医療設備が十分に整っていること
- ②責任を持って治験を実施する医師、看護師、薬剤師等がそろっていること
- ③治験の内容を審査する委員会を利用できること



## 指標の定義、計算方法

治験実施件数：治験の種類数

治験実施症例数：治験への参加患者数

## 指標のレベル・ベンチマーク

平成31年4月現在、大阪バイオ・ヘッドクォーターによる『治験ネットおおさか』（大阪府内の大学病院、国立病院、府立病院を含む16病院の治験ネットワーク）に参加している。

## 病院の強みと指標における特徴

---

がんの専門病院としては、独立行政法人国立がん研究センター中央病院及び国立がん研究センター東病院が臨床研究中核病院に、静岡県立静岡がんセンターが治験拠点医療機関に、当センターと兵庫県立がんセンターが治験病院活性化事業による補助を継続する拠点医療機関となっております。

当センターでは、がんの治療法をはじめとした医療のさらなる進歩に向け、企業等との共同研究のほか、治験にも積極的に取り組んでいます。